



# 全国大学史資料協議会

2017年度 全国研究会 第6報告

テーマ：新制大学発足をめぐる各大学の  
動向 —その資料と活用—

旧制大学として創立した愛知大学の創成期  
—新制大学への移行期も顧みて—

東亜同文書院の 45 年  
愛知大学の 70 年



2017.10.12 愛知大学豊橋校舎 記念会館小講堂

愛知大学 豊橋研究支援課長  
東亜同文書院大学記念センター  
田辺 勝巳

# 旧制大学として創立した愛知大学の創成期 —新制大学への移行期も顧みて—

1. 東亜同文書院大学の概要
2. 愛知大学の創立概要
3. 愛知大学年表
4. 愛知大学創成期
  - (1) 『愛知大学—二十年の歩み—』より
    - 旧制大学・新制大学並行時代（昭和24.4～27.3）
    - 一．学制改正による旧制大学から新制大学への移行
    - 二．新制大学の発足、旧制大学予科一学年修了者の新制大学への移籍
    - 三．新制愛知大学の完成
    - 四．新制愛知大学学則・教授陣容
    - 五．短期大学の新設・名古屋校舎の発足
    - 九．1950（昭和二十五年）の本学の動向
    - 一〇．霞山文庫買収
    - A．名古屋大学との合流問題
  - (2) 『愛知大学新聞』より
    - 一．第1号（昭和23年9月15日）
      - ◎新制大学の構想成る—国際人士の養成陶冶を念願
    - 二．第5号（昭和24年2月5日）
      - ◎新制大学 最終決定は二月中旬 本月下旬に発表
      - ◎【論説】新しき学苑に望む
    - 三．第6号（昭和24年3月20日）
      - ◎【論説】新制大学の発足に当つて 小岩井淨
5. «参考» 『中部日本新聞』より
  - 一．「適格百十二校を発表」（昭和24年3月19日）
  - 二．「大学法案をめぐる論議」（昭和24年3月23日）
  - 三．「新しい大学の出発に当つて」（昭和24年4月20日）
6. 愛知大学記念館・東亜同文書院大学記念センターの事業





# 東亜同文書院大学

愛知大学のルーツ校「東亜同文書院大学」は、1901（明治34）年に上海に誕生した「東亜同文書院」が発展し、1939（昭和14）年に大学へ昇格して成立したものです。

当時の東アジアは欧米列強の圧力が清国へ一層強まる中、日本も危機感を抱いていました。そのような中、弱体化しつつある清国と提携し、東アジアの安定を図ろうとする動きが、それまでの欧米指向中心であった日本の中に新たに芽生えました。

それをまず具体化したのが、荒尾精による日清間の貿易をめざし、貿易実務者を養成しようと1890（明治23）年に上海に開学した日清貿易研究所で、卒業生約90名を輩出しました。

しかし、そのあと日清戦争が始まり、荒尾がめざした当初の目的は達成できませんでした。日清戦争が日本の勝利におわり、清国への賠償金問題で世論が盛りあがりを見せたときにも荒尾は、清国への賠償金請求に反対表明を繰り返しました。また、日清間の貿易発展のための方策を検討していきました。

一方、近衛家の筆頭となった近衛篤磨は独学のうえ、ヨーロッパ留学を経験しました。2度目のヨーロッパ訪問時にはヨーロッパ列強のアジア戦略情報を知ると、東アジアの安定化のためには、日清間での教育、文化交流の必要性を痛感したのです。そこで、1899（明治32）年、近衛は帰路、清国に立ち寄り、近代化への改革をめざす実力者である劉坤一や張之洞の両総督に会い、日清両国学生と一緒に教育する学校を南京に開設する構想を提案し、承認を得たのです。

1900（明治33）年、近衛は両総督との協議により、南京に「南京同文書院」を開学し、日本人入学生24名は、

清語、英語、商業、政治などを学び始めました。

「南京同文書院」開学前には、両総督より、南京清国学生を、南京で教育を受けるよりも日本へすぐに留学させたい、との申し出がありました。近衛は東京自宅に「東京同文書院」を開設し、受け皿としました。なお、日清両国学生が一緒に学ぶようになったのはそれより約20年後のことです。

「南京同文書院」は設立直後、北清事変によって南京の危機が高まったため、上海へ移動することとなりました。近衛は発展を図るべく新たな全国府県費（給付奨学金）制度を設け、学生募集をし、1901（明治34）年、上海高昌廟にキャンパスを設置し、「東亜同文書院」に改名しました。「東亜同文書院」初代院長には根津一が就任し、荒尾精が意図した日清間の本格的な貿易実務者を養成するビジネススクールとして誕生したのです。カリキュラムは、清語、英語の語学と貿易、商業科目を重点的に配置し、特徴的な科目として、中国国内を主なフィールドワーク先とした「大調査旅行」が配置されました。

根津は、荒尾精と近衛篤磨の意志を受け継ぎ、永く院長を務めました。根津院長は中国古典をベースにした倫理学の授業をもち、卒業生がビジネス界で活躍する際の倫理や徳の必要性の指針を示し、書院生から神様のように尊敬されました。

「東亜同文書院」は、1945（昭和20）年、敗戦とともに幕を閉じました。卒業生約5,000名を輩出し、活躍は多方面にわたります。なお、多くの入学生は府県費生（給付奨学生）として入学、書院の経営は東亜同文会が担いました。のちに、書院の卒業生も同会で活躍しています。

荒尾  
精

(1859-1896)



東亜同文書院の前身、日清貿易研究所を上海に開設。

近衛  
篤磨

(1863-1904)



初代東亜同文会会長

根津  
一

(1860-1927)



初代東亜同文書院院長





# 愛知大学

愛知大学は、1946(昭和21年)年、東亜同文書院大学最後の学長本間喜一や、小岩井浄、神谷龍男、木田彌三旺はじめとした東亜同文書院大学関係者が中心となり、愛知県豊橋市長の支援もあり、豊橋市の旧陸軍士官学校(旧陸軍第15師団)跡地に、当時、中部地区唯一の法文系大学として創立された。

設立にあたり、吉田茂内閣総理大臣に旧制大学として許可され、日本で第49番目の開学であった。

愛知大学は、戦後混迷の時代、初代学長林毅陸、第2・4代本間喜一、第3代小岩井浄らにより礎が作られた。愛知大学の「愛知」は「智＝知を愛する者が集う」を意味し、設立趣意書には戦後創立された大学としては画期的な「国際的な教養と視野をもった人材の育成」「地域社会への貢献」が明記されている。

そして、帰国時に上海から持ち帰った東亜同文書院の学籍簿・成績簿を、愛知大学にて保管している。

初代学長(1946-50)



はやし きろく  
**林 毅陸** [1872-1950]

衆議院議員、慶応義塾第6代塾長  
東亜同文会理事、秘書顧問官

第2代学長(1950-55)  
第4代学長(1959-63)



ほんま きいち  
**本間 喜一** [1891-1987]

東亜同文書院大学第3代学長  
(最後の学長)  
最高裁判所初代事務総長、弁護士

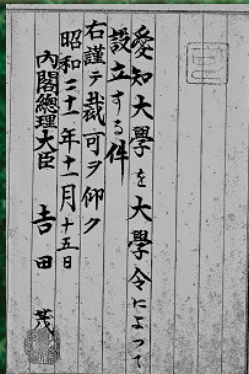
第3代学長(1955-59)



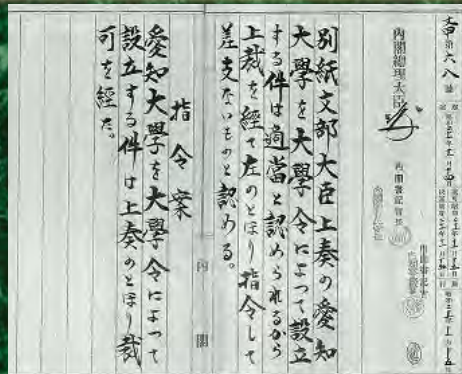
こいけ きよし  
**小岩井 浄** [1897-1959]

東亜同文書院大学講師  
上海経済研究所副所長、弁護士

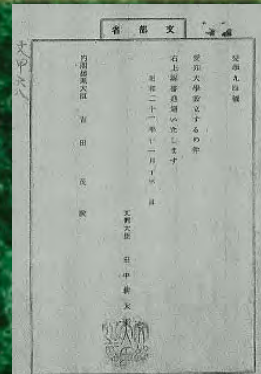
旧制大学の設立は、文部大臣から内閣総理大臣へ、そして天皇に仰ぎ、認可されるプロセスであった。



昭和21(1946)年11月15日、吉田茂内閣総理大臣が昭和天皇へ「愛知大学を大学令によって設立する件」について裁可を仰いだ公文書で、裁可が認められたことにより、天皇によるご押印が右上になされている。










昭和21(1946)年11月14日、吉田茂内閣総理大臣が、田中内閣文部大臣上奏の「愛知大学設立する件」を適当と認め、昭和天皇に上裁したい旨が記載されており、上裁を経た後には「愛知大学を大学令によって設立する件は、上奏のとおり裁可を経た」との指令案が併記されている。



昭和21(1946)年11月13日、田中耕太郎文部大臣が吉田茂内閣総理大臣へ、「愛知大学設立する件」について仰いだ上奏書である。



# 愛知大学年表

できごと	年 月	豊 橋	名古屋
<b>愛知大学 創立</b> 元東亜同文書院大学の教授を中心に、元京城帝国大学、元台北帝国大学等の教授により、財団法人愛知大学を設立(1946年11月15日、旧制大学)	1946 11	愛知県豊橋市の南部旧豊橋陸軍予備士官学校（陸軍第15師団）跡地に旧大学令により旧制大学として創立 <b>豊橋校舎 開校</b>	
	1947 1	予科 開設	
国際問題研究所 設立	4	法経学部 法政科・経済科 設置	
学制改革により新制大学設置	1948 6		
書山文庫買収	1949 4	法経学部 法学科・経済学科 設置 文学部 社会学科 設置	
	1950 3		
<b>名古屋分校 開校</b>	4	文学部 文学科 設置 短期大学部 法経科第二部、文科第二部 設置	<b>名古屋分校 開校</b> 東洋学園高等学校 1 棟6教室を借用して開講（名古屋市中区赤穂町） 短期大学部 法経科第二部 設置
私立大学法の施行に伴い、財団法人愛知大学を学校法人愛知大学に組織変更	1951 3		
<b>名古屋校舎 移転拡張</b>	5		<b>名古屋校舎 移転拡張</b> 元中京女子短期大学の校地及び校舎を購入し、現在の名古屋校舎・車道校舎の基礎を築く（名古屋市中区住道町⇒（住所変更）東区局井二丁目10-31）
総合郷土研究所 設立	6		
中部地方産業研究所 設立	1953 3	4 大学院法学研究科、経済学研究科 設置	
東亜同文書院作成の『華日辞典』原稿カードが中華人民共和国より本学へ返渡	1954		
華日辞典編集開始(現、中日大辞典編集部) 設置	1955 4		法経学部教養課程 開講
	1956 4	文学部 史学科 設置	短期大学部法経科第二部を廃止し、法経学部第二部法学科（夜間）、経済学科（夜間） 設置
	1957 4		
	1958 4	文学部 哲学科 設置	
	1959 4	短期大学部 文科学科第二部を廃止し、短期大学部 文科学科（女子） 設置	
	1961 4	短期大学部 生活科（女子） 設置	法経学部専門課程 開講
経営学研究科(経営総合科学研究科)に1990年改称) 設置	1962 4		
山岳部学生13名山梨県山梨師範で全県選考	1963 1		法経学部第一部 経営学科 設置
『中日大辞典』初版刊行(現在は第3版)	1968 2		
豊橋鉄道通乗線「大学前」駅(現「愛知大学前」駅)新設	1972 9		
豊大事件判決上告棄却確定	1973 4		
愛知大学学術訪中国(国防院(南開大学招請))	6		
北京大学代表団来学	1974 11		
愛知大学等学生訪中国、南開大学・北京大学等訪問	1976 6		
セミナーハウス開設(南設東部風采町富栄)	11		
	1977 4	大学院経営学研究科 設置	
西加茂郡三好町に約20万平方メートルの校地確保	1979 6	短期大学部法経科第二部 廃止	
愛知大学代表団訪中(南開大学・北京語言学院・中国教育部・中日友好協会・中国社会科学院近代史研究所・北京大学等訪問)	1980 10		
<b>名古屋校舎 新キャンパス(三好) 開校</b> ※名古屋校舎から移転 <b>車道校舎 に名称変更</b> ※名古屋校舎は車道校舎に名称変更	1988 4	短期大学部に留学生別科、別科（英語専修・生活環境専修）開設	<b>名古屋校舎 新キャンパス(三好) 開校</b> ※名古屋校舎は名古屋市中東区局井から西加茂郡三好町に移転
	1989 4	経済学部1部、経済学部2部 設置 ※法経学部第一部・法経学部第二部の学生募集停止	法学部2部 設置 ※法経学部第一部・法経学部第二部の学生募集停止
『中国政経用語辞典』刊行(国際問題研究所編纂)	1990 9		大学院法学研究科、経営学研究科を豊橋校舎から移転
	1991 4	大学院中国研究科 設置 文学研究科 日本文化専攻・地域社会学専攻・欧米文化専攻 設置	
東亜同文書院大学記念センター 設立 大学記念館設置(※東亜同文書院大学記念センターを改称) 白樺高原ロッジ建設(長野県立科町)	1993 5		
	1995 12		
	1997 4	短期大学部別科（英語専修・生活環境専修）廃止	
	12	法経学部第一部、法経学部第二部 廃止	法経学部第一部、法経学部第二部 廃止
教養部廃止	1998 4	国際コミュニケーション学部 言語コミュニケーション学科、比較文化学科（夜間開講制） 設置	
	1999 4	文学部 日本・中国文学科、欧米文学科 設置 ※文学科 改組	
エクステンションセンター 開設	2000 4	短期大学部 言語文化学科、現代生活学科 に名称変更	
	2002 3	短期大学部留学生別科 廃止 外国人留学生別科 開設 大学院国際コミュニケーション研究科 設置	
国際中国学研究センター（IOCS）設立 ・文部省「21世紀COEプログラム」(国際中国学研究センター)採択 ・文部省「特色ある大学教育支援プログラム」(現代中国学部)採択	2003 10		
三連南信地域連携センター(現、三連南信地域連携研究センター) 設立	2004 4	経済学部1部を 経済学部 に名称変更	<b>車道校舎 新キャンパス開校</b> 大学院法務研究科（専門職大学院）＝ <b>法科大学院</b> 設置
・文科省「私立大学学術研究高度化推進事業」(三連南信地域連携センター)採択	2005 3	大学院法学研究科 廃止	法学部1部を 法学部 に名称変更
	4	文学部 人文社会科学科 設置 ※文学科、社会学科、史学科、日本・中国文学科、欧米文学科改組 短期大学部 ライフデザイン総合学科 設置 ※言語文化学科、現代生活学科改組	経営学部 会計ファイナンス学科 設置
愛知大学孔子学院 設置	2006 3	外国人留学生別科 廃止	
・文科省「オープン・リサーチ・センター整備事業」(東亜同文書院大学記念センター)採択	4		大学院会計研究科（専門職大学院）＝ <b>会計大学院</b> 設置
・文科省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代中国学部)採択	2007		
・文科省「専門職大学院等教育推進プログラム」(法科大学院)採択	2008		
愛知リーガルクリニック法律事務所 開設	2009 10		
・文科省「大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラム」(大学・短大)採択	2010		
・文科省「大学生の就業力育成支援事業」(短大)採択			
・文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(三連南信地域連携センター)採択			
・外務省「日中研究交流支援事業」(国際中国学研究センター)採択	2011 3	経済学部2部 廃止	法学部2部 廃止
	4	地域政策学部 設置	
・大学共同利用機関法人人間文化研究機構「現代中国地域研究推進事業」連携拠点(国際中国学研究センター)			
<b>名古屋校舎 新キャンパス 開校</b> ※名古屋キャンパス（三好）から移転 国際ビジネスセンター 設置	2012 4		<b>名古屋校舎 新キャンパス 開校</b> ※名古屋校舎は西加茂郡三好町から名古屋市中村区平池町に移転 経済学部、国際コミュニケーション学部 豊橋より移転
・文科省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」(東亜同文書院大学記念センター)採択			
・文科省「グローバル人材育成推進事業(特色部)」(現代中国学部)採択			
・文科省「大学間連携共同教育推進事業」(学部・短大)採択			
・文科省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」(短大)採択			
・文科省「共同利用・共同拠点(越境地域政策研究拠点)」の認定(三連南信地域連携研究センター)	2013		
・文科省「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」(三連南信地域連携研究センター)採択			
人文社会科学研究所 設置	2015		
<b>大学創立70周年</b>	2016		



## 第二節 旧制大学・新制大学並行時代（昭二四・四～二七・三）

### 一、学制改正による旧制大学から新制大学への移行

学校教育法の施行により本学は二十四年二月二十一日付で新制大学設立が正式に認可された。従って旧制大学は自然廃止となるのであるが、現在在学中の旧制大学学生の卒業までは旧制新制大学が並行することとなった。すなわち二十四年三月予科三年へ進級したものが、残った予科の一年間と旧制学部 of 三か年をおわり卒業した昭和二十八年を以て旧制大学は自然廃止されたのであり、新制大学は二十七年四月を以て完成したのである。この四か年間は新旧両大学が併存していたのである。左に新制愛知大学設置要項を掲げる。

#### 新制愛知大学設置要項

##### （一）目的及び使命

わが国が平和的志向をもって民主的・文化的国家を建設して、国際協力関係と世界平和の増進に寄与しつつ民族生活の福祉増進を図るためには、国民の教養が高められ、広く国際的視野に立って真理と正義を希求する強健な国民として育成されることを根本の要務とし、且つ時勢に適應する諸制度の採用、産業経済の建設、社会教育および社会事業の振興に努めねばならない。

学部を轉換拡充して法経学部（法学科並に経済学科）および文学部（社会学科）の二学部となし、国際的大学としての長年の伝統を生かして、広い視野と高い教養を与へ、且つ法律・政治・経済・社会教育および社会事業等の各分野における専門的職能教育を施さんとするものであるが、特殊には従来人文科学系並に社会科学系の大学教育機関に缺くる中部東海地方の文化の向上にも貢献し、何よりも国際的視野に立って特に東洋の政治・経済・社会等に関する研究教授に力点をおきつつ学術文化の方面より国際協力関係の増進を図り、かくして民主的・文化的日本の建設に寄与せんことを期するものである。

- （二）名 称 愛知大学
- （三）位 置 愛知県豊橋市町畑町
- （四）校 地 総坪数 四九・一五六坪
- （五）校舎等建物 総坪数 建坪五、五六三坪 延坪六、五四一坪
- （六）図書標本機械器具等施設概要

##### 1、図 書

総冊数 五七、七七〇冊

内 訳 内国書 五六、二九七冊

外国書 一、四七三冊

外に雑誌報告紀要 四七四種 一七、五五〇冊

##### 2、標 本

#### 第二章 建 設 期



生物学に関するものを主とし、なお体育の講義に関係あるものも若干含む

動物標本	七種	植物標本	五種
生理標本	一種	病理標本	一種

計 一四種

なを逐次購入の予定で必要経費は予算に計上してある

### 3、機械器具

物理学・化学・生物学等自然科学関係の授業に使用するものを主とし外に体育に関するものを含む

物理学化学及び生物学用機械器具 九〇種

体育用機械器具 五種

計 九五種

なお逐次購入の予定で必要経費は予算に計上してある

## (七) 学部及び学科の組織並びに附属施設

### 1 学部及び学科の組織

法経学部 法学科

経済学科

文学部 社会学科

### 2、附属施設

#### イ、国際問題研究所

総合・貿易・米国・中国・ソ連・朝鮮の六研究部門があり、各国の政治・経済・文化・社会の研究調査並びに資料の蒐集を任務とし、学部兼任の教授・助教授・講師若干名及び専任の研究員若干名をおく

#### ロ、経営研究所

中小企業問題・農工業経営等に関する学術的研究並びに実際の指導を行うことを目的とし、併せて学内工場及び学校農場の経営指導にあたる。学部兼任の教授・助教授・講師若干名及び専任の研究員若干名をおく

く

#### ハ、新聞学研究室

一般新聞に関する編輯・経営の研究及び資料の蒐集を行うことを目的とし、併せて大学新聞の発行にあたる。学部兼任の教授・助教授・講師若干名及び専任の研究員若干名をおく

### B、附属厚生施設

#### イ、出版部

学内の出版事業を行い学生の厚生並びに学校財政に寄与する

#### ロ、学内工場

オブラート製造・製油・澱粉製造の作業を行い、学生の厚生並びに学校財政に寄与する

#### ハ、学校農場

## 第二章 建設期



耕作及び家畜飼育を行い職員学生の厚生並びに学校財政に寄与する

(ハ) 学部及び学科別学科目概要

各学部学科目の概要は次の通りである。

1、一般教養科目（各学部各学科共通）

人文科学関係	九科目	三十六単位
社会科学関係	五科目	二十単位
自然科学関係	四科目	十六単位

右の中十科目四十単位以上を履修させる

2、専門科目

法経学部	法学科	三十六科目百四十六単位
	経済学科	三十四科目百三十六単位
文学部	社会学科	二十八科目百十二単位
外に卒業論文（各学部各学科共通）		八単位

右の中、卒業論文の外に十八科目七十二単位以上を履修させ八十単位以上とする

3、体育（各学部各学科共通） 二科目四単位

(九) 履修方法及び学士号授与概要

1、履修方法

2 学士号授与

一般教養科目の外に一年次から専門科目を履修させ逐次之を増加する

四ヶ年以上在学し次の単位数を取得した者に本学所定の学士号を授与する

イ、一般教養科目 四十単位以上

ロ、専門科目（卒業論文を含む） 八十単位以上

ハ、体育 四単位

合 計 百二十四単位以上

(ロ) 職員組織概要

総 長 一名

一般教養科目（各学部各学科共通）

専任教 授	一三名
専任助教授	六名
専任講 師	五名
兼任教 授	一名
兼任講 師	一名
計	二六名

専門科目

第二章 建設 期



法経学部

専任教 授

一六名

専任助教授

三名

専任講師

二名

兼任教授

九名

兼任講師

九名

計

三九名

文学部

専任教 授

一四名

専任講師

一名

兼任教授

一名

兼任講師

四名

計

二〇名

体育(各学部各学科共通)

専任教 授

一名

専任講師

二名

計

三名

合計

八九名

外に 研究員

四名

事務員その他

三名

総計

一二六名

(二) 学部及び学科別学生定員

法経学部	法学科	各年次二〇〇名	計	八〇〇名
	経済学科	〃 一〇〇名	計	四〇〇名
文学部	社会学科	〃 一〇〇名	計	四〇〇名
合計		〃 四〇〇名	計	一六〇〇名

合計

〃 四〇〇名

(三) 設置者

本学の設置者は財団法人愛知大学である

本法人の理事及び監事名は次の通りである

理事	林 毅 陸 本間 喜一	横 田 忍	神野 太郎	大竹 藤知
	小岩井 浄 戸沢 鉄彦	四 方 博	梅 村 清	
監事	片 山 理 松坂 佐一			

本法人の顧問名は次の通りである

顧問	三 洲 忠彦	高野 岩三郎	長谷川 万次郎	安倍 能成	田中 耕太郎
----	--------	--------	---------	-------	--------

第二章 建設期

一一三



三 維持經營の方法概要

本學經營のための各年度の收支不足金額は初年度六百万円、第二年度五百三十万円、第三年度六百三十万円、完成年度五百三十万円である。それらの不足金額は財団から支弁するが、財団の資金調達の方法は次の通りである。

1、旧制大学よりあげる収益	初年度	二百十万円	第二年度	二百三十万円
	第三年度	二百万円	完成年度	百四十万円
2、後援会より得る維持員会費	初年度	七十二万円	第二年度	八十五万円
	第三年度	百八万円	完成年度	百二十万円
3、父兄会より得る維持費	各年度	百二十万円		
4、事業収入	初年度	五十一万円	第二年度	七十七万円
	第三年度	百万円	完成年度	百三万円
5、新聞協会寄附金	各年度	十八万円		
6、豊橋市教育委託費				

各年度 二百五十万円  
合 計

初年度 七百三十万円 第二年度 七百八十万円  
第三年度 七百九十万円 完成年度 七百五十万円

右の外、従来の実績からして臨時的寄附金収入が各年度相当の金額に上る。

四 大学開設の時期

昭和二十四年四月一日

二、新制大学の発足、旧制大学予科一学年修了者の新制への移籍

新制大学の設置は昭和二十四年二月二十一日付で正式に認可され、法経学部と文学部の二学部の開設が認められることになった。新制大学準備委員会を中心に予て諸般の準備を進めておいたので三月中には入学試験を行って合格者を決定した。

既設の大学予科一学年修了者は新制大学へ移籍して新制大学の一年生となり、この移行学生と新入の新制大学生とを以て第一学年を編成し、予科二年修了者は旧制予科三年へ、予科三年修了者は旧制大学一年へそれぞれ進級または入学し、五月四日合同入学式を挙行して、ここに新旧両制大学並行時代へ移行した。

昭和二十三年愛知大学要覧によればこの時点における学生数は新制大学法経学部法学科九八名、経済学科四二九名、文学部社会科学科六七名、合計五九四名、旧制大学三年一〇八名、二年一二八名、一年一九〇名、合計四二六名、総計一、〇二〇名であった。



旧制新制大学並びに短期大学部の学部学科別構成と学生数  
(昭和27年5月1日現在)

新、旧 制 別	区別	学部名	学科名	学 年 別				計
				1 年	2 年	3 年	4 年	
旧 制 大 学 (三年制)	法経学部 〃 法経学部 研 究 科 〃	法 政 科	3	2	99		99	
		経 済 科			213		213	
		法 政 科					5	
		経 済 科			2		9	
新 制 大 学 (四年制)	法経学部	法 学 科	71	71	57	111	310	
	〃	経済学科	381	422	302	417	1,522	
	文 学 部	社会学科	24	13	7	10	54	
	〃	文 学 科	43	30	24	29	126	
短期大学部 (夜間二年 制)		法 経 科	458	354			812	
		文 科	20	22			42	
計			1,000	921	704	567	3,192	

326名  
2012名  
854名

それ以前昭和二十二年九月には地元民の要望に応え勤労青年のために門戸をひらき法政・経済・文学別科(夜間二年制)を開設し、附設高等科(夜間一年制)とともに二〇〇名が夜間学生として入学を許可されていた。かくて、昭和二十四年度においては、旧制・新制・別科の三本建となり、学生総数は旧制新制大学および別科生合計一、二二〇名に達した。昭和二十七年新制大学完成年度には学生総数三、〇〇〇名、教員数九〇名、職員数四〇名が予想されるに至った。

昭和二十五年には新学制にあわせて短期大学部(夜間)を設立することとなり認可を得、豊橋校舎(法経科・文科)と名古屋校舎(法経科)と両者同時に発足した(本章本節五参照)。短期大学の発足によって前記別科および高等科は自然廃止された。

### 三、新制愛知大学の完成

本学は昭和二十一年十一月十五日旧制大学として認可されたものであるが、もとよりなら財政的基礎を持っては居ら

ず、この五・六年は特に苦難の道を乗りこえて来たのである。第三者から見れば、おそらく危ういものであったろうが、当事者たちは創造の意気の軒昂たるものがあり、人の和によって支えられて来たのであった。

昭和二十七年には新制大学が完成し、その年には旧制大学最後の学年も並存していた。この時に至っては、財政的不安定を除けば、本学教学の基礎は確乎として定まったのである。

旧制・新制大学並びに短期大学部等の学部構成と学生数とは上に掲げる表の如くであり、旧制大学学生三二六名、新制大学学生二、〇一二名、短期大学部学生八五四名、合計三、一九二名と次に掲げる教授陣容を持った大学に発展した。

### 四、新制愛知大学学則・教授陣容

#### 新制愛知大学学則(附録参照)

#### 教授陣容

総 長	林 毅 陸
総長代理	小 岩 井 浄
法経学部	小 岩 井 浄
学 部 長	小 岩 井 浄
教 授	小 岩 井 浄
〃	竹 井 廉
〃	玉 井 茂
第二章 建設期	政治思想史、社会思想史 商法 経済学



〃	小幡清金	財政学、貨幣金融論
〃	園部 敏	行政法、地方自治論
〃	森谷克己	經濟原論、社会政策、中国經濟史
〃	花村美樹	刑法、刑事訴訟法
〃	戸沢鉄彦	政治学原論、政治史、行政学
〃	松坂佐一	民法
〃	四方 博	經濟原論、經濟史、各国經濟史
助教	三好四郎	農業政策
〃	荻野茂彦	法学、國際政治
〃	大石岩雄	経営学、經理学
講 師	胡麻本蕙一	國際政治經濟事情、露語
〃	山本二三丸	國際金融論
文学部 学部長文博		
教授	秋 葉 隆	社会学
〃	秋 葉 隆	社会学
〃	鈴木 沢 郎	中国語
〃	齊 伯 守	東洋思想史、漢文
〃	板倉 躬 音	独語、独文学

〃	若江得行	英語、英文学
〃	久曾 昇	国語、国語学
〃	服部正己	言語学、独語、独文学
〃	住谷悦治	社会史
〃	田中梅吉	文学概論、独文学
〃	山崎知二	仏語、仏文学
〃	清水武雄	新聞学
〃	熊沢復六	露語、映画演劇論
助教	鈴木中正	歴史
講 師	コンスタンチン・グドルフ	宗教学
教養部 部長		
教授	玉井 茂	経済学、英語
〃	玉井 茂	経済学、英語
〃	横山将三郎	倫理学、論理学、考古学
〃	大内義郎	生物学、自然科学概論
講 師	中村和之雄	英語
助教	津之地直一	国語
〃	細迫朝夫	哲学、倫理学
第二章 建設 期		



昭和二十五年以降着任予定教授の大略

(\*印は従来既に旧制学部講師に來講されたことのある人々)

法経学部 教授	本間 喜一	商法
法博	平田 央	社会法
経博	波多野 鼎	経済原論、経済政策
林 要		経済原論
*太田 英一		統計学、世界経済論
*山下 康雄		国際法
*隈 崎 渡		法制史
*鵜 飼 信成		比較法
*石 浜 知行		国際政治経済事情、各国経済史
山 村 喬		協同組合論
*久留間 鮫造		経済学史

文学部 教授	佐佐木 信綱	国文学
文学部 教授	高 桑 純夫	哲学
文学部 教授	武 市 健人	哲学
文学部 教授	杉 浦 健一	民族学、社会調査
文学部 教授	福 山 政一	社会事業論
文学部 教授	小 島 軍造	倫理学
文学部 教授	戸 田 義郎	商工政策
文学部 教授	*高 橋 正雄	国際政治経済事情、各国経済史
文学部 教授	*嘉 治 隆一	国際政治経済事情
文学部 教授	*宇 野 弘蔵	経済政策
文学部 教授	尾 高 朝雄	法哲学
文学部 教授	*菊 地 勇夫	社会法
文学部 教授	*西 村 信雄	民法
文学部 教授	石 川 正一	経済政策
文学部 教授	色 川 幸太郎	刑法、労働法
文学部 教授	奥 田 或	農業政策
文学部 教授	鈴木 武雄	貨幣金融論、国際金融論

第二章 建設期



〃	富岡益五郎	哲学史
〃	内藤戊申	東洋史
〃	*伊藤猷典	教育学
〃	文 博	
〃	新 居 格	現代文学論
〃	芦沢光治良	現代文学論
〃	見田石介	芸術史
〃	石黒魯平	言語学
〃	高木佑一郎	社会思想史
〃	宮坂哲文	教育学
〃	市 川 寛	国文学
講 師	北垣恭次郎	文化史
〃	杉浦明平	文化史、文芸思潮
〃	*鈴木栄太郎	社会学、社会史
〃	中島俊教	社会教育論
〃	和田陽平	社会心理学
〃	小 野 忍	中国文学
〃	尾坂徳司	中国文学

教養部 教 授	川出麻須美	国語
〃 理 博	箕作新六	自然科学概論、化学
〃	鈴木元晴	体育
講 師	市村昭夫	自然科学概論、数学
〃	本多良助	数学

その他目下交渉中の入々数氏がある。

旧制講師補充	植田捷雄	外交史
	藤江忠二郎	民事訴訟法
	西川磯吉	統計学
	丸山 薫	文芸思潮

### 五、短期大学の施設・名古屋校舎の発足

昭和二十二年開学後間もなくはじめた夜間の教養講座は、熱心な受講者の要望にこたえて制度化され、二十五年三月には短期大学部（夜間）を新設するに至り、豊橋本校に法経科および文科、名古屋校舎に法経科を設置し、勤労学生の手を助けることになった。名古屋では東区赤荻町東邦学園高等学校の建物一棟六教室を借用して校舎とした。名古屋における短期大学は二十六年五月往還町の元中京女子短期大学の校舎・校地を購入して移転し、現在の名古屋校舎の基礎を築いた。（第三章二〇参照）



正月第一週より九月までつづいた。

# 九、一九五〇年（昭和二十五年）の本学の動向

一九五〇年の本学の建設とその方向について愛知大学新聞二十五年二月五日号に論説が登載されている。この論説は創立当時の意気と自覚とを示していると思うので、筆者は不明であるがその概要を左に摘録する。

(一)三周年記念日を期して学術誌（註、法経論集・文学論叢）を発行して大学の内容的飛躍・学問的建設への意図を強く表明している。(二)常に建設、常に前進、逞しい建設精神によって日日その創造が進められなければならない。(三)学問の研究を盛んにし、アカデミックな空気を濃厚に醸成し、学問的水準を高めて行くためには教授連の充実や施設の完備が是非必要である。けれども同時に半面学生の学問的意欲や、傾向の如何がこれまた悔り難い関係をもつものである。学生が学問に対して熱意も良心も持ち合わせないものとしたら、大学らしいものは絶対に実現されない。(四)新制と旧制との間に相当大きなひらきがあると見られているが、これは学制から来ることで一体どこにも見られることであろうけれども、新制の学生たちが大学生らしい大学生になるためには、さらに一層の努力が必要であらう。教授の側における研究が盛にすめられるとともに、学生への熱心な研究指導がなされ、一面これに呼応して学生の態度も主体的となるとき、大学の全体を挙げて高い学問的精神が支配する、かくしてアカデミズムの殿堂は形成される。(五)建学の精神からしても、愛知大学はほんとうの人間を作る道場にもならない。この表現はやや古風で、戦時中の精神主義を思わせるが、大学は一にも二にも学問の場所であり、「学問する」ことを通じて人格の修業をするところである。(六)戦後の日本の風潮は学生や青年の心魂を傷けているものが少なくない。民主主義や自由主義も誤って早呑みこみされている場合がしばしばである。愛知大学は人格教育の場でありたい。学生自身が自らを形成し教育して行くべきである。問題はそういう風習をどうやってこの大学に育てて行くかということである。学生諸

君の自覚と奮起とを切望して止まない。

## 一〇、霞山文庫買収

霞山クラブの蔵書約三万五千冊は本学創立にあたって借用したものであったが、二十五年三月に同会会長徳川家正氏より売却したい旨の申出があったので、困難な財政から買収費を捻出することに決定し、三月二十七日応諾の旨出伏した。図書譲受代金は一五〇万円とし、三回の分割支払いであった。この蔵書は漢籍および中国書で、その価値は書籍の充実した現在においても大なるものであるが、蔵書皆無で発足した本学図書館にとっては極めて大なる価値があり、無一物で引揚げて来た教授・学生の至宝であった。

## 一一、旧制大学・新制大学合同入学式

二十五年五月には旧制予科最後の学生が旧制学部へ入学し、同時に新たに新制大学学生が入学した。これら新制・旧制大学入学者計四七〇名を迎え、五月十五日合同入学式が挙行された。

愛知大学産みの親である本間喜一氏は、当時最高裁判所事務総長として出向中であつたが、上記入学式において次のような祝辞を贈られた。

孟子は「君子は三つの楽しみがある。父母いまして兄弟故なきは其一なり。天を仰いで恥ぢず、人に対して恥ぢざる其二なり。天下の英才を集めてこれを教育する其三なり」といつている。理想に燃える数百の英才を迎えたわたしどもの清々しい喜びは、君子の楽しみである。諸君は数十万の同年輩の国民から大学の研究機関を利用できる機会を持った「選ばれた人々」



## A 名古屋大学との合流問題

昭和二十三年二月二十三日の学部予科連合教授会において小岩井教授は名古屋大学との合流問題について次のよう

な報告を行った。

名古屋大学との間に合流問題が度々伝えられたことがあった。については若し合流の可能性があった場合には合流に伴う条件等を確めておく必要がある、また一方名大が総合大学として新発足するに当って、本学の教授を個別的に引抜くようなことがあっては本学としても困ることであるからこれ等の点について森戸文相と個人的に話合ったことがある。これに対し名大田村総長は、文相を介して愛大から合流の申込みをうけたなどと言明したが、事實は本学から正式に合流の申込みをしたようなことは全然ない。また名大の教授中には愛大との合流を希望している人が多く、或る会合の席で自分にそれを言われたことがあった。これに対して自分は(1)教職員の全員吸収(2)学生の全員吸収(3)地元との了解、の三条件が充たされなければ実現不可能と考え、その旨を答えたことがある。これ等の事情から一度名大当局者の意向を打診しておく必要があると考え、自分は全く個人の資格で田村総長と会見した。田村氏はその際「自分は文相に会見した時に合流問題については文相に一任すると答えた。然るに文相からその後何等の話もない。故に貴方から文相を動かして話をすすめてもらいたい。その結果文相から話があればその通り名大ではやり度いと思う」と答えた。それで文相と会見したところ、文相は「愛大にとっては合流も一つの方法であると思うから貴方と名大と話合ってその結果を持ってきてもらいたい、そうすればそれによって希望通りにしたいと思っている。」と答えた。

尚、名大の新年度予算は未だ決定して居らず、一学年の分だけしか決っていないと言うことである、また文部省の意向では名大と合流といった場合にも愛大の学生だけを無試験で全員名大に入学させると言うことは実現困難であるとのことであった。



右のような経過でこの問題は一応打ち切りとなるものと考えて東京から帰った次第である。帰学後田村氏と会談したところ田村氏は大変乗気であり具体的な話に入らんとした、併しこの問題については前述のような難点が三つある。その中で地元との了解の問題は何か妥協の余地があるが、他の二つについては非常に困難である故にこれ以上の交渉は名大から正式に申入れがあった場合に態度を決定すべきものと考え話を打ち切って帰って来た。一方名大でも結局新年度の予算が通らなければ合流問題に対する構想が出来ないものと想像する。以上の説明に対し合流問題について可否の意見の開陳あり。先づ本学の財政の見通しにつき小岩井教授より収支について説明があった。見通しとしては手放しの樂觀は許されないことは勿論であるが、必ずしも絶対悲觀的とも思われない。この財政の見通しを基礎として合流問題に対する可否の意見の開陳があり、合流反対の意見は初めは圧倒的であったが、この場で反対を決議するのは早急であり、条件の如何、又は学校の将来等を考慮して慎重に決定すべきであるとの意見が次第に有力となり結局次回に改めて決定することになった。

名古屋大学と戸沢・松坂・四方三教授の関係の件につき七月三十日学部予科合同教授会が開かれた。昭和二十三年七月二十九日中京新聞に「名大法経学部教授の一部内定」という見出しで、「今秋発足する名古屋総合大学法・経両学部の教授・助教授の選考は難航をきわめていたが二十七日名大本部で開かれた第十一回創設委員会で法四、経五、文六計十五講座のうち法二名、経五名、文二名の教授を内定……八月十二日開かれる創設委員会で正式に決定される……開校は十月中旬の予定である。候補にあげられた教授の顔ぶれは次の通り

△法経学部（法）戸沢鉄彦・松坂佐一（いづれも愛大）当分兼任、担当科目は未定、（経）四方博（愛大）Ⅱ経済政策……（教授の顔ぶれの中、愛大関係のみ記載）」と記されている。

右の中京新聞の記事に関し当日の合同教授会で戸沢教授は次の如く述べている

「新聞紙上に発表された通り、名大が総合大学になるに付き法科に私と松坂氏、経済に四方氏がゆき経済政策の担当と言うように相当確かに発表されたが、委員会の決定に基いてやるべきものが先に紙上に発表されて迷惑している、七月二十一日の会議では未だ教授となる約束はなかった、故に留保してあった問題である、新制大学の専任教授の件もあり諸君とはかつて態度を決することになっていた」と説明があった。之に対し二、三の質問が出されたが戸沢教授は合同（名大と）の件も考えたがこれは不可能だから、名大のことも考えて後に之を利用（人事の交流）して愛大の財政的に苦しい点を少しでもカバーできればよいと考えているとの見解を示された。教授会としては三氏の主体性をあくまで愛大に置くことを要請した。小岩井教授は三氏と名古屋大学との関係について「三氏が名大に協力するということは、法文系では協力であると同時に競争であると思う。正しい競争であるから、愛大の学術文化を向上し特色をつくりそしてこの地方文化を振興させたいと考える、だから協力は同時に犠牲も生ずるが大きい目から日本の学術振興のために名大に行かれることもよいが、愛大としては競争を以ってこのマイナスを補うべきである」と発言があった。愛知大学が新制大学に切替の場合専任教授として関連があり名大の態度には文書を以って遺憾の意を表すべきであるとの意見も出された。その後十一月五日に戸沢教授が学監を辞任し小岩井教授が学監に選任された。昭和二十四年四月十八日には四方教授が予科長を辞任し、小岩井教授が学監兼予科長に選任された。

名古屋大学総長田村春治氏に対する抗議文

謹啓 新緑の候貴大学愈々御隆昌の段大賀に存じます。



さて最近承知いたしましたところによれば、本大学教授戸沢・松坂・四方三氏先般貴大学教授として任官発令に相成りました由、これはいかなる次第でありましょうか。新制大学にとって所謂専任教授なるものが、その設立のみならず維持運営のためいかに重要な意味をもつかは御承知の通りであります。従来貴大学と本大学との間の折衝の経過にかんがみ、本学に御断りなく突如今回の御計いをなされたのは本学として諒解に苦しむところであります。失礼ではありますがおたずね申上げ、卑見を啓発していただきたく考える次第であります。敬具

五月 日

愛知大学総長 林 毅 陸

名古屋大学総長田村春治殿

この抗義文に対し田村総長からは返信をうけとることは出来なかった。結局昭和二十四年六月一日付で戸沢・四方・松坂の三教授は愛知大学の専任教授を辞し兼任教授となった。

# 一〇、創立一周年記念式典

昭和二十二年十一月十五日、創立一周年記念式典は愛知大学の歴史の一頁を飾るものとして正に意義ある祝典であった。

この式典が行われた講堂は運動場の東側にあり、講堂に通ずる二百メートルほどの道の両側は枯草におおわれ、かつては軍靴の音高く鳴り響いていた運動場には、時には二メートル近い青大将や野兎が出没することも珍らしいことではなかった、

当時の記録には次のように記されている。

十一月十二日講堂に学生生徒を召集し、正式に記念祭行事につき学校側の発表をなし、あわせて構内清掃のための奉仕を依頼し、次のような区分担当が行なわれた、本学構内を十八区に別け一区平均五人、二日間の労働をもって一切の整備を終ることに。集合した学生々徒は学部・予科生を合わせて百拾名、細迫講師より行事進行次第の説明があり、本行事に学生の協力を求めて次のような訓示を行った。

ここに集合した諸君は少数ではあるが、真に愛校精神に燃えている諸君である、本行事に参加し、且つその準備のため学校当局に協力して欲しい。諸君一人一人の隠れた努力が本学の伝統を後日に残してゆくのである。私は昨夜も或る生徒と語った。その生徒は予科徽章の図案の工夫に何日間どれだけ苦心したか解らないと自ら述懐していた。諸君は青春の一時を自分が本学の土台となるとの心得をもって本行事に参加し学内整備にも協力してほしい。

式場係は式場の整備のため次のような手配を行った。什器備品等何も持たない大学としてはすべてを借用品に頼らなければならなかった。

- 一、大講堂にかける紅白幕を小池神社より借用。
  - 二、緞子カーテンを豊橋市東部第一中学校より借用。
  - 三、豊橋市より花瓶一個、テーブル掛二枚借用。
  - 四、来賓用の上等スプリング椅子十二個は十五日式当日早朝、財務局豊橋出張所（大学副門前）から借用。
- 接待係・案内係・式場係計三十二名の応援を学生・生徒側に求める。

式場は各教室から持ち出した約二百の長腰掛を除いては、すべて上述の如く豊橋市の各方面からの借用品によって、一応式場らしい体裁を整えることができた。



# 愛知大學新聞

**第1号**

昭和23年9月15日(水)

[illegible]

**P19**

Katsumi TANABE @AICHI Univ.

# 愛知大學新聞

**第1号**

昭和23年9月15日(水)

新制大学の構想成る一國際人士の養成陶冶(とうや)を念願

明年度から実施される四年制**新制大学**案について本学でも慎重審議を重ねた結果、このほど具体案も完成したが、戦後のあらゆる悪条件の中から引揚げ者を主体とする教授と学生が一体となつて国際紳士の要請、世界知識の普及、地方文化の向上の大目的の下に設立された趣旨に徹し特に新しいセンスをもつた新鮮な学風を樹立し、自学自習を本位として進むべく独自の構想を以て立案されている。内容において法学部(法律学科・政治学科)経済学部(経済学科)文学部(社会学科・文学科)の三学部を揃え文科大学としての面目を十分整えている。なおこの具体案は大学設置委員会にかけられるが設立三年にして早くも三学部を設置することとなつたことは輝かしい事実といわなければならない。

## P20

Katsumi TANABE @AICHI Univ.

# 愛知大學新聞

**第5号**

昭和24年2月5日(土)

**新制大学** 最終決定は二月中旬  
本月下旬に発表 ①

本学新制大学設立認可の  
審査は一月八日午前十時より  
新制大学設置委員会第七  
委員大泉(上智大学副総  
長)野口(東大工学部教授)  
高垣(紅陵大学学長)本多  
(行方総代理)の四氏により  
行われた。

[illegible]

P21

Katsumi TANABE @AICHI Univ.

# 愛知大學新聞

**第5号**

昭和24年2月5日(土)

**新制大学** 最終決定は二月中旬 本月下旬に発表 ②

午前中は書類の審査、午後は学内施設を実地検証して三時過ぎ終了したが審査員は創立なお日浅きにもかかわらず充実した施設、講座をもっていることと軍施設の最上の利用法に感嘆しつつ審査を進めた。

最終決定は二月中旬以後**新制大学設立基準協会**で決められるが発表は少しおくれて二月下旬になるものと予想されており、決定され次第直ちに募集要項を発表、入学試験は三月下旬ないし四月上旬行われるはずで授業開始は四月下旬となるもようである。

## P22

Katsumi TANABE @AICHI Univ.



## 愛知大學新聞

第5号

昭和24年2月5日(土)

## 【論説】

新しき学苑に望む

①

## 論説

新しき学苑に望む

創立二週年式典を経た今日本学各種設備も完備し、教授陣の優秀性も自他共に許すようになった。新制大学設置の査定も終り、審査員も創立間もない学苑のかくも発展した姿に驚嘆したに違いない。

学苑は物的施設に人間が単に集っているのではなくして、すべての物的、人的の構成要素が有機的に結びつき、一体として動いているものである。

P23

Katsumi TANABE @AICHI Univ.

## 愛知大學新聞

第5号

昭和24年2月5日(土)

## 【論説】新しき学苑に望む ②

陸軍学校として建設された本学校舎がそのまま利用されているので不足な点、無用な個所も多々見受けられるが、われわれは学校施設を全面的に利用し且又改良しなければならぬ。

(略)

大学としての施設が満足とは言えないまでも一應完備せる現今においては、將來に対して永年に続く傳統をうち立てなくてはならない。然しそれは外部より強制されたものであつてはならない。あくまでも自己の内よりもり上つたものであるべきだ。

(略)

引揚学徒、軍学徒の救済設備より発展し、進んで國政・文化の基底と根幹となるべき人士を陶冶し、地方文化隆盛に資する事に尚一段と積極的努力を要する。傳統もそれに必要な精神氣風を涵(かん)養すべきものでなければならぬ。

P24

Katsumi TANABE @AICHI Univ.

## 愛知大學新聞

第5号

昭和24年2月5日(土)

## 【論説】新しき学苑に望む ③

傳統の下に集い、それをより発展進歩せしめる為の大同團結が必要であり、自治会活動も徒に授業料値下げ運動を主務とするのみであつてはならぬ。数え年、四歳となつたわが学苑にも新制大学なる弟を迎えんとし、自由に自分の意思通りに行動する肉体と精神を克ち得たのである。

(略)

新制大学の構想が種々練られているが、空想は空想、理想は理想として処理し堅実なる地盤の上に立つものを計画し、現実的なものを要求せねばならぬ。ローマは一日にしてならず、学閥を誇る諸大学の運営方法に対し、羨望し模倣する必要は全くない。この学閥に関してわれわれは一考を要すべきである。

P25

Katsumi TANABE @AICHI Univ.

## 愛知大學新聞

第5号

昭和24年2月5日(土)

## 【論説】新しき学苑に望む ④

創立二周年式典の時、長谷川如是閑(によぜかん)氏は大学の地方分散を強調し、豊橋は愛知大学とともに発展すべき事を述べ、また大竹豊橋市長も豊橋の文化向上の指針たるべきとを本学に要望された。

(略)

更に新制大学の成立認可も二月下旬にならぬと判然たる事はいい得ないが、前途有望なるものがある。

(略)

われわれの周囲に未だ残存している封建的圧迫を排除し、また絶望的デカダンの生活を払拭して眞に建設的なものへの発展が必要である。われわれは眠れる友をゆり起し、本学の興隆、文化國日本の再建にまい進せねばならない。

P26

Katsumi TANABE @AICHI Univ.



## 愛知大學新聞

第6号

昭和24年3月20日(日)

## 【論説】

新制大学の発足に当って  
小岩井 淨 ①

わが愛大の新制大学設立は、幸に内外の理解ある支援と協力とによつて円滑に進捗し、愈々(いよいよ)この四月から法経、文の両学部をもつて発足することになった。

法・経文学界の権威を盛つて  
新制愛知大学堂々の発足

愛知大學新聞

論説  
新制大学の発足に当って  
小岩井 淨

Katsumi TANABE @AICHI Univ.

P27

## 愛知大學新聞

第6号

昭和24年3月20日(日)

## 【論説】 新制大学の発足に当って 小岩井 淨 ②

わが愛大の新制大学設立は、幸に内外の理解ある支援と協力とによつて円滑に進捗し、愈々この四月から法経、文の両学部をもつて発足することになった。

終戦後始めて愛大が創設されてからまだ三年に満たない、その当時はもち論新制大学というシステムもなかつた。それはとにかく愛大の創立は日本教育史上甚だ稀有の現象であつた。というのは予科一年から三年まで同じく学部一年から三年までの両学年が一挙に開設されたのである。だからして大学(旧制)としての形態は最初から一應整備されたいといふことができる。

(略)

Katsumi TANABE @AICHI Univ.

P28

## 愛知大學新聞

第6号

昭和24年3月20日(日)

## 【論説】 新制大学の発足に当って 小岩井 淨 ③

新制大学の設立を図らねばならなくなり、しかもこの際従来の法経学部の轉換(てんくわん)の外に文学部の新設をも遂行しようとしたのであるから、そのための犠牲と努力とは必ずしも少なくなかつた。だがいわば第二の創立とでもいふべきものも無事なしとげて愛大は今や新制大学として確実に発足することになったのである。

まずこの四月は新入生を迎えて新制大学の一学年を開講する。そして今後四年間において全学年を完成する。一方この四年間に予科三年生を援軍として平行的に存続する旧制大学は、口出し式にその機能を閉じて解消してゆく。つまり新制大学への轉換と一應の完成とはこの四月から始めて四年間に口口的にすすめられることになるのである。

(略)

Katsumi TANABE @AICHI Univ.

P29

## 愛知大學新聞

第6号

昭和24年3月20日(日)

## 【論説】 新制大学の発足に当って 小岩井 淨 ④

法経学部は一層充実されて、法学、経済学の両学部に分離独立するであろう、文学部も内容を充実し多くの学科に分化するであろう。のみならず懸案たる農学部の新設もできるだけ近い時日に実現されなければならない。

(略)

大学は成長する樹木のようなものである。もつとも樹木の成長はやがて停止する時期もあろう。だが大学の成長、口学の建設は日々に限りなくすすめられねばならない。

(略)

たとえば全体としてその目標がひろい教育をもつ優れた社会人の養成という点にあること。こういう目標のもとに大学の課程において人文、社会、自然三系列にわたる教養学科が相当の比重をもつて課せられねばならない。

Katsumi TANABE @AICHI Univ.

P30



## 愛知大學新聞

第6号

昭和24年3月20日(日)

【論説】新制大学の発足に当つて 小岩井淨 ⑤

一方画一的教育を排する意味で学年制にかわる講座制の採用、また選択性が廣汎に用いられること。一体に学生に対しては自主的な学習態度が要求される。教授はこのような態度を指導しなければならない。等々多くの問題があるが、このような新制大学の新しき意図または構想は極力活かされねばならない。これが何よりも新制大学の内容における重要なポイントである。

それとともにわれわれは我が愛知大学の内容的充実のために特に次の二つのことを考えたい。その一つはわれわれの大学の特色というものを大きく発揮するということである。

P31

Katsumi TANABE @AICHI Univ.

## 愛知大學新聞

第6号

昭和24年3月20日(日)

【論説】新制大学の発足に当つて 小岩井淨 ⑥

一口に新制大学のあり方と□□□□□□の大学がその□□を発揮し特長を伸ばすということがのぞまれるのであるが、特にこの点は一定の基準に縛られやすい国立大学に比して私学において最も可能性があり、否私学の存在理由こそ実にそこにありといふことができる。

他のもう一つの点は、愛大の学問的水準を非常に高いものに伸ばしてゆかなければならないということである。新制大学の基準によれば大学は「最高の教育機関」であるとともにまた「学術文化の研究機関」とされている。

P32

Katsumi TANABE @AICHI Univ.

## 愛知大學新聞

第6号

昭和24年3月20日(日)

【論説】新制大学の発足に当つて 小岩井淨 ⑧

一体に新制においては旧制に比して「教育」という面が多くとり入れられていることが見られる。それはそれでいい。しかし大学の真義はやはりどこまでも学術の研究の場たることでなければならないであろう。新制大学は旧制に比して学生の学力が低下しはせぬかということが一般にいわれるが、こういうことは日本の将来のために絶対にあらしめてはならない。併しそのためには大学が□に学問の府となり、高い水準をめがけて学術研究のために精進するものであつて始めて可能となるであろう。幸い愛大の教授陣については内外に対し自信をもつていいものがある。

P33

Katsumi TANABE @AICHI Univ.

## 愛知大學新聞

第6号

昭和24年3月20日(日)

【論説】新制大学の発足に当つて 小岩井淨 ⑨

われわれは愛知大学の学術的水準をいよいよ高くしここに自ら独自の学風を建設するとこまですまねばならない。この秋わが愛知大学は眞の意味で大学として建設されたといふことができるであろう。学術の研究のためには研究の自由が高口され保証されなければならない。学術研究の自由、学風の自らなる形成、等々をいうことは、併し、大学が一定のイデオロギーに偏執することではもち論絶対でない。

世間というものとはともすればカンタンに誤解し、浅薄に批評するものであつて、愛大の高い意図に時々陰影をなげないではないが、われわれはひたすら謙虚にしかもたくましく大学の成長と充実とをめがけて一歩一歩堅実な歩みをつづけたいと思う。

(筆者は本学学監)

P34

Katsumi TANABE @AICHI Univ.



名古屋に九大学誕生

新制大學設立委員會した十二校を合せて全國で新制大學はさる十四目から三日間第八回總會を開き三つの結果で義勇奉公となつた國立、公私立百十九校につ

學が百八十五校となつた

愛知縣では先に預製された名城、南山、愛大、名鐵料、金城の五校に加えて名大、愛知工業、愛知薬、榑山を加えた九大學、夜間大學として名城、南山の二

修方、保望、校多決定したので十八日発表した、これに千葉校二、早稲田校（創立六十八）、公立廿三、私立廿廿、その他三のうちに廿七、三校（創立六十七、公立十八、私立八十八）、その他一校（安倉校、廿九、公立廿五、私立廿三）、その他一（米倉校、一校（公、私立各一））とつたわけで、罪状決定

部でそれぞれ誕生した  
 なお総合大学は名大だけで予想されていた法学部、経済学部の分離は法学関係の教授陣が奮闘のため認められず結局六学部となつた

**合格校** 国立 北海道大  
 （法、理、医、工、農、教育）  
 北海道大（学術）小  
 樽井大（商）新潟大（商）  
 弘前大（教）

青、醫、文、理、室、大、(學、範、  
工、農) 東北大(法、文、經、  
醫、理、工、農) 山形大(教、育、  
工、文、理) 福島大(學、範、經、  
天、城、大(教、育、工、文、理) 宇都  
宮大(學、範、經、群、農、大(學、範、  
醫、工) 須玉大(文、理、教、育)  
千葉大(學、範、醫、藥、工、農、  
園、藝) 東京大(教、育、法、文、  
經、醫、理、工、農、教、養) 東  
京外語大(外、語) 東京學藝大  
(學、範) 東京農藝大(學、範、畜、  
藥) 東京文敎大(教、育、文、理、  
農、經) 聖京士達大(工) 東京  
國立女子大(工、家政) 文、理、  
家政、東京農工大(農、醫、經、  
園、畜、漁、林、大(學、範、經、理、一、大、大  
(經、商、法、社、會) 橫濱國立

木口俵稱(學藝、經、工)新  
瀨大(教育、医、理、法、人  
文、醫)富田大(教育、工、藥  
文、理)金沢大(教育、医、理、  
工、藥、法)福井大(學藝、  
工)山梨大(學藝、工)信州  
大(教育、工、文、理、農)  
岐阜大(學藝、醫、理、商大(教  
育、工、文、理、名古屋大(教  
育、文、法、醫、理、工)愛  
知學藝大(學藝)愛知工業大  
(工)三重大(工、醫)滋賀大  
(學藝、經)京都大(教育、法、  
文、經、医、理、工、農)京都  
學藝大(學藝)京都工藝纖維  
大(工藝、纖維)大阪大(文、  
法、經、医、理、工)大阪外銷大  
(外語)大阪學藝大(學藝)神  
戶大(教育、法、經、工、理、醫、  
文、理)奈良學藝大(學藝)奈  
良女子大(文、理、家政)和歌  
山大(學藝、經)鳥取大(學藝  
、医、農)島根大(教育、文、理)  
岡山大(教育、医、理、農、  
工)廣島大(教育、文、理、  
工、政、經、水產)山口大(教

育、經、工、文理、醫）群馬大（學藝、医、工）富山大（學藝法経）愛媛大（教育、工、文理）高知大（教育、文理、農）關西學科大（學藝）九州大（教育、法、文、経、医、理、工）  
〔北九州〕工大（俗稱Ⅱ）工佐賀大（教育、文理）長崎大（學藝、経、医、藥、水産熊本大（教育、医、理、工、薬、法又）大分大（學藝、経）福岡大（學藝、工、器、農林大（教育、農、文理、水産）Ⅱ計六十校

【公立】東京都立大、浪速大（教育）熊本女子大（學藝）愛媛縣立松山農科大（農）九州農科大（農）兵庫縣立農科大（農）Ⅱ計六校

【私立】Ⅰ部は夜間部）日本体育大（体育—茨城）日本大Ⅱ一部（法、文、経、工）法政大Ⅱ部（法、文、経）東京神學大（神）東京増殖大（工）東北学院大（文、経）東北農科大（農）中央大Ⅱ部（法、経、

商) 中央労働学院大 二 部 (社会) 立教大 (理) 立正大 二 部  
 (文) 文、立命館大 二 部  
 (理) 工大、阪城大 (経) 大妻女子大 (家政) 聖泉、和洋女子大  
 (商) 大正大 二 部 (文) 文、南山大 二 部 (文) 久我山  
 大 (十) 東京 福岡商科大 (商) 武蔵川学院女子大 (学) 上兵  
 庫、聖学院大 (政、文) 二 部 駒沢大 (商) 相模女子大 (学) 共立女子大 (家政) 近畿大  
 (商) 理士、二 部 明治学院大 二 部 (文) 明治大 二 部 (法、商、政経、文) 名城大  
 二 部 (商) 多摩工芸大 (工) 昭和女子大 (学) 清心女子大  
 (学) 岡山、西学院大 (学) 岡山、新岡山薬大 (工) 大  
 阪、府立大 二 部 (商) 法、新潟大 (商) 相山女子学院大  
 (政) 二 部 三七校  
 【その他関係】 (所食定定) 分、商大 (商) 東京水産大  
 (水) 二 部 校







【社説】大学法案をめぐる論議

大学法案は四月国会上程の予定と伝えられているがこれに対する反対運動も強い。アメリカのボード・オブ・トラステーにならった大学基準協会の「理事会案」に対しては、昨年五月の国立大学教授連合総会がいち早く反対し、六月学生の「教育復興運動」にも授業料値上げ反対とからんでとり上げられた。その後十月に文部省の「国立大学法試案」が提示されてから問題は□□化し、国立大学□□案、教育刷新□□□□、東大案、名大案、日教組案、□□案、□□□□□□などが出て、活発な論議が展開されるにいたった。最近では学生が大学法案反対のストライキを起した学校もあり、大都市では教授や学生、職員が街頭に進出して反対の氣勢を上げているところもある。

問題がこのように紛糾したことには文部当局の非民主的な問題の取扱方にも責任があるであろう。さきに「教育復興運動」で学生が理事会案反対を叫んだときには、文部当局は□□をにごして法案の取扱いについてアイマイな態度をとった。その後廣く世論にはかることもなく当局案を作成して、たちまち反対論の続出に当面するというような不手際ぶりである。相変らずの官僚的な□□主義による立案が反対論を擁護するのは当然である。こういう□□のなかにあつて、大学法案をめぐる活発な論議が展開されていることは「ゾウゲの塔」に眠っているかと思われた大学がエネルギーの新しいはけ口をたまたまここに見出したものともいえる。大学法案に官僚的不合理が見出され、それに対する反発だとなれば、それは眞理探究の精神にも通ずるものであろう。その意味では大学もまた政治との対決や社会との直結を余儀なくされている。法案をめぐる批判と論争の過程に新しい大学の在り方が形成されつつあるともいえよう。

しかし大学側の反対運動にも反省すべき点が少くない。いまのところ当局案や類似案反対の点ではほぼ一致しているようであるが、□□的な代案になると必ずしも各校あるいは校内においてさえ一致していないようだ。反対論の中には相変らず「官立帝国大学」の特権を温存しようとする無反省なエゴイズムもないとはいえない。「進歩的」をもつて自任するものもこうした学内の自己批判を忘れて、古い独善的なセクショナリズムに同調しているきらいもないことはない。幾つかの法案は反対運動の中に統一されて、その過程において古い大学のからをぬぎすててゆくというのでなければ、この反対運動も進歩的な意味を持ちえない。またようやく形ばかりの発足をしようとする多くの新制大学の貧弱な現状から浮き上がった理想論であつてもならない。その点ではむしろ公私立大学や民間有識者の批判的意見にきくべきものが多い。

論点の一つになつている□□教育と職業教育を分離すべきでないという反対論の主張は、民間研究機関の少い日本の現状では当然であろう。たしかに研究の自由を失つた大学には健全な発達は保障されない。六・三制の基底さえ確立していない現実においては、研究と教育との相関関係はとくに必要である。もう一つの論点となつている管理機関については、大学の自治は大学人へのみよらなければならぬというような反対論はアカデミーの独善ではなかろうか。現に反対運動への協力を世論に求めているように新しい「国民の大学」を守り育てるものは社会大衆である。納税の負担者である市民の代表が管理委員会に加わるのは民主社会の要請であり、教育委員会もそうした要請にもとずいて発足した。ボスに支配されるような大学なら実は社会から遊離した存在であるといわなければならぬだろう。もちろん大学教授を不当な支配から解放して研究と教育に専念させるための身分保障の措置は必要であるが保証の最大の力は□□において民主的に啓発された社会大衆にある。

国立大学自体が経営難や教授陣容の弱体をおおいいないごとく、新制大学は困難な自立経済への過程において□□務教育の未発達のうえに実現されようとしている。大学の自治と自由もこうした社会の現実から離れて□□的に与えられるものではない。むしろ貧しくとも新鮮な社会の風を入れてこそ古い大学のカビもぬぐい去られるだろう。そうした新しい大学はもつと社会から関心をもつて□られるにちがいない。



今年から沢山の大学が新しく全国の各地に生れ、ちかくそのスタートが切られようとしている。このときに当って、これまでのわが国の大学が全く知育偏重であつたとの弊害をとり除き、これからの日本が本当に必要とする人物を育て上げる必要を痛感する。これはただに今日の困難な家計のなかから大学教育を受けようとする学生とその家族だけの問題ではないのであつて、窮乏した□の経済のうちから多くの大学生を送りだそうとする日本国民のすべての関心事でなければならない。

今日までのわが国の大学は学生に専門教育を授けるところであつた。学生は数百人も入れる大きな教室で教授の講義をノートし、学年末ごとにそのノートを暗記して試験を受け、一定の単位をとるとそれで学士として社会に送りだされていたのが実情であつた。もつとも理科系統の大学と文科系統の演習などには例外はあつたとしても、その多くの場合において大学は教授の研究結果をほとんど一方的に学生に講義だけであつて、教授と学生の間に何らの人間的なつながりもなく、いわんや学生の人間としての人格完成のごときはほとんど顧みられなかつた。こういうドイツ式教育の□はわが国の大学において遺憾なく□□され、学生は全体主義社会に奉仕すべき一部分として専門的知識が□求されたにすぎなかつた。

ところが民主主義社会にあつては学生は全体のための手段であつてはならず、むしろ学生自体が一つの目的でなければならない。新しい大学においては個々の人格を完成し、自由なとらわれない立場で廣く世界をみることのできる社会の重要な要素としての素質をつくることに重点がおかれなければならない。個々の学生をそれぞれ一人の人間として発展させる教育に力が注がれるべきである。それにはどうすればよいか。米国の教育使節團の勧告に基いた六・三・三・四制の形式をのみまねることなく、その内容を学びとることが大切である。

米国の大学は最初オックスフォード、ケンブリッジなど英国風の模倣にはじまり、つぎにハイデルベルヒ、ベルリン大学の学風に影響された。はじめは教授は学生とともに生活したが、その後教授は知育に重きをおくようになった。しかし米国の州が西にのびるに従つて米国独自の大学教育が生れてここ廿五、六年の間にその歴史がつくられた。それは一言にしていえば大学にはティーチングとリビングの二つがあるということが認識されて、大学の教授は教室以外の学生の指導を、眞剣に、しかも科学的にとりあげるようになった。今日米国の学生が大学に入ると、上級生が大学の中を案内していろいろな人に紹介する。学生の指導を受けもつ教授が学生の相談相手となつてくれる。入学した学生が将来何の職業に適しているか、健康はどうか、これと知育との関係は果たして現状のままでよいかなど学生の大学生活のすべてにわたる綿密な調査が一つの組織のなかで累積されてゆく。そしてこれが指導にあたる教授も、教室における講義と同じ重要性をこれにおいて決してその仕事を避けるようなことはしない。これは大学を社会の一断面とみて、ここの知育と生活とが社会にですぐ活用されることを目的としたものである。

これまでのわが国の大学卒業生のなかには、ただ漫然と大学に入り、自分の性向と能力に全くふさわしくない職業に漫然として入つたものがなかつたであらうか。これから新しく生れようとするわが国の大学にはこうしたことのないように、学生の大学生活の指導がぜひとも必要である。そのためには学生部といったようなものを設けることもよい。ただこの場合戦前にみられたような□□□導のみをめざした学生課的なものであつてはならない。それと同時にいかに民主的な大学生活といつても、学校側だけが最後の決定権限をもつことがらと、教授と学生が協議すること、学生だけで決定するこの区別をはつきり定めておくこともあわせてあらかじめ考慮するべきであらう。

経済的に貧困な現在のわが国の実情からすれば新しくできた大学の数は確かに多すぎる。しかしそれだけにこの困難のなかからでてくる大学の卒業生に一人のムダもあつてはならない。英国ではその国土と経済力の上から大学をいくつつくるべきか、文科と理科の相関的な比率をどうすべきかなどに科学的検討が加えられているが、これをわが国でも研究する一方、生れでた新しい大学をどのように育てるかを先ず当面の課題としなければならない。



# 日本の風景 名作並ぶ

## 平松さん、母校愛大で絵画展

日本画家平松礼三さん。別荘が三十二戸、母さん〇の名作が並ぶ。特 校の愛知大豊橋校舎



「空へ向かう睡蓮」を前に解説する平松さん。愛知大豊橋校舎で

（豊橋市町田町）で始まる。東三河や全国各地の風景画を中心に約八十点を展示する。十一日、平松さんも来場して開場式があった。

東京都出身の平松さんは創立旭丘高等学校を卒業後、愛知大法学部（当時）に進学し名古屋校舎で学んだ。

一九九〇年代からは、日本美術の影響を受け「ジャポニスム」を表現した十九世紀フランスの国家主義の拠点、パリ郊外のヴェル

ニイ村に通って創作に取り組んだ。今昔には愛知大から名誉博士号を授与された。

会場には紅葉が美しい「阿寺の七棟（三河）」や「一路・三河」などの風景画のほか、平松さんが十一年間にわたって雑誌「文芸春秋」の毎月についた表紙画の一部も展示している。

「空へ向かう睡蓮」（二〇一六年）は初公開。モネが描いた池のスイレンを前に、桜の花とモネの葉をちりばめた作品。開場式後、平松さんは「異なる四季を融合する感性は、西洋人にも理解してもらえた。日本人と

してジャポニスムの歴史ができた」と話した。